



宗像往来

画家・花田喜八郎さん

玄界灘を見渡す福岡県
福津市奴山にある宝蓮寺

(青木一乗住職)の

本堂天井画を制作しました。テーマは「宗像に育つ花」。四十五坪、四方厚さ一坪の杉の柱目板約二百五十枚にサクラやウメ、ユリなどを油絵の具で描きました。仏さまは花で飾るのが一番だと考えました。見る人の心をなごませてくれます。好きなアケビやミカン、ヒワも描きました。足掛け三年がかりの仕事でした。寺はわが家の菩提寺

宗像の花を寺の本堂天井画に

で、本堂は約二百二十年前に建てられましたが、木のいたみが進み老朽化していたうえ、福岡沖地震で大きなダメージを受け建て直すことになったものです。

私も七十六歳、十年前に九州造形短大教授を退いた後も、宗像市美術協会会長、宗像市文化協会会長などの仕事を引き受け飛び回っていますが、人生で一番大切な仕事、思い残すことのない仕事になりました。感謝しています。六月に竣工式、十月に落慶法要が行われることになっています。

(九州造形短大名誉教授、福岡県宗像市)

252種の花本堂彩る

宗像市の花田喜八郎さん

5年かけ天井に描く

福津市の宝蓮寺



寺の天井に宗像市内で咲く252種の花を描いた花田喜八郎さん

宗像市美術協会の花田喜八郎会長(モ)が、市内で咲く二百五十二種の花を、福津市奴山の宝蓮寺の天井に描いた。下絵作りから完成まで五年をかけた力作。今月中旬に完成した本堂を鮮やかに彩っている。

花の絵は、本尊が置かれる内陣と呼ばれる部屋とその両脇の部屋の天井に描いた。下絵作りから完成まで五年をかけた力作。今月中旬に完成した本堂を鮮やかに彩っている。

花田さんは同寺が菩提寺で、五年前に亡くなった前住職・青木玄瀧さん(六八)とは、中学校教諭のころの同僚。天井画は青木さんとの約束板一枚に一種類ずつ油絵だった。

花田さんは「生涯の仕事をやりたい気分。建て直された本堂にも花を添えられた。多くの人に

身の周りに咲く花を天井堂を使用している場合を除き、見学できる。同寺 0940(52)0667。天井画は法事などで本